

射水市立 大門小学校



射水市立 大門小学校

校長：亀谷 正恵

指導教諭：小嵐 弘子
山崎 智仁
古田 節子
小島 忠輝

発表児童：4年生(16名)



本校は射水市の南西部に位置し、平成18年に大門・浅井・柳田の三小学校が統合して創立された学校である。校区の西側には庄川の清流、東側は田園地帯、南側には緑深い丘陵や史跡を有するなど、豊かで美しい自然環境に恵まれている。現在777名の児童が在籍している。

「ふるさと学習」を推進し、5月の「越中だいもん凧まつり」をはじめとする地域での体験活動などに積極的に参加している。地域の方々の温かい協力や支援を受けながら主体的に活動する子供の育成を目指し、教育活動を展開している。



発表テーマ

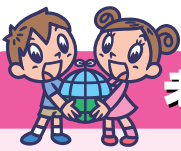
『大切にしよう ふるさとの川』

校区内には、庄川をはじめ大小さまざまな川が流れています。その川の水質調査や生物、植物調査を行いました。また家族や祖父母から、昔の川の状況や庄川の氾濫があったことなどを聞きました。川は人々の生活に切り離せないものであり、大切にしなければならぬことを伝えます。

小嵐 弘子 先生より

身近なところから興味・関心を引き起こすため、学習の始めに家族へのインタビューを行った。子供たちにとって身近な川でありながら知らなかったことなどが多く、驚きや発見、疑問の連続だった。聞き取り調査や本、インターネットを使つての調べ学習を基に、川の見学、生き物や水質検査などの体験活動を通して川や水の大切さをより確かに感じる事ができた。感じる事が多かつたからこそ、「何かしなければ」という気持ちも高まつたように感じる。この学習は、地域や関係機関の方々など多くの人々の協力のおかげで進める事ができた。地域の方々の期待にこたえるためにも、それぞれが自分の地区にある川を誇りに思い、これからもずっと活動を続けていってほしいと願っている。

ふるさとの自慢・きれいな川を未来へ



考えたこと! 感じたこと!

これからも庄川を守りたい

番匠 佑季(4年生)

この学習を通して、庄川は大切な川だから「川にゴミを捨てない」など自分たちができる活動をして庄川を守りたいと思いました。そして、きれいな川にすむ水生生物をもっとふやして、祖父母や父母が子供のころのようなきれいでたくさんの魚がいる川にもどしたいと思います。

川がきれいになるように

寺本 詠和(4年生)

庄川、鴨川、和田川のどの川も生き物がすんでいてきれいな川なのに、ゴミがありました。和田川の清掃活動では、サイクリングロード側にゴミが少なく反対の草むらのほうにはゴミがたくさんありました。ほくもゴミを捨てず、きれいな川を汚さないように努力していきたいと思います。



▲鴨川の生き物を捕まえ、観察しました。



▲用水でも生き物調査をしました。



▲庄川の水質検査、水生生物調査を行いました。



▲捕まえた生き物が何かをシートを使って確かめました。



▲鴨川の源流を見学し、地域の先生に昔の様子や伏流水について教えていただきました。



▲生活に使われる井戸水です。飲んでみると冷たくておいしかったです。

学習テーマの設定

きれいな川はみんなの自慢。川は私たちの校区の自慢のひとつです。一番大きな川は庄川。流れ込む支流の和田川があり、その支流に鴨川があります。昔の川のように、父母や祖父母にインタビューしました。



川は今もきれいかな？昔は川で洗濯したり、コイやフナが釣れたと聞きおどろきました。晴れた日は透き通って川底が見え、泳げたそうです。今の汚れた川からは想像できません…そこで川がきれいなのか調べることにしました。

学習の展開

川には生き物がいっぱい。まず生き物を調べました。庄川にはきれいな水にすむヒラタカゲロウが多く、ヨコエビやトミヨがいた鴨川も水がきれいだとわかりました。薬品を使いCODの数値で調べた結果からも川の水はきれいでした。



きれいな源流にゴミが…鴨川の源流の親司川では養魚場で魚を育てています。地域の先生に案内してもらい、庄川の伏流水や、きれいな水にしか生えないバイカモを見ました。でもこんなきれいな源流にもゴミがありました。

地域の人が協力し川を守る。今もコイやフナ、ウグイがすむ和田川では地域の方々がゴミ拾いをしたり、また鴨川では藻刈りを行うなど協力して川を守っているのにゴミがたくさん落ちています。そこで自分たちができる活動を考えました。



水害をのりこえた歴史。川はときに恐ろしい一面を見せます。庄川は昭和9年にははんらんし、大きな被害をもたらしました。でも伏流水の出る豊かな土地を人々は離れず、いま豊かな水田があるのは、このときの努力のおかげです。

自分たちができる活動を！水は人間にも、生き物にも必要なもの。その水を運ぶ川を汚しては取り返しがつきません。これからも地区のきれいな川を自慢に思い、自分たちができることを続けて川を大切にしていきます。

